

新

1. 子どもたちが未来を生き抜く力の育成

将来予測がますます困難となる時代において、子どもたちが夢や志のもとに可能性に挑戦し、豊かな未来を切り拓いていくためには、基盤となる自己肯定感の涵養を図りながら、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し行動する力と、他者の存在や個性を大切にし協働する力を育むことが求められます。また、AIなどのデジタル技術の進展や社会の多様化に伴い、情報を適切に活用し主体的に判断・行動する力や、人間ならではの感性や創造性を発揮する力、多様な価値観を理解し広い視野で物事を捉える力がより一層重要となっています。

このため、幼児期において、学びの基礎となる好奇心・探求心の育成や自己肯定感の涵養のため、充実した幼児教育の提供や家族のふれあいなどの家庭教育の支援に取り組みます。それを土台に、成長段階に応じて、自ら深く思考し学ぶ「確かな学力」と、他者を思いやり共に支え合う「豊かな心」、それらを支える「健やかな身体」をバランスよく育む教育を推進し、社会を生き抜く基盤となる力の育成を図ります。

また、ICTの効果的な活用や読書活動の充実等を通じた情報活用能力の向上、情報モラルを含めたデジタルシティズンシップ(*)の醸成といった情報化社会に対応する教育に加え、自然や地域社会での体験活動を通じた人間ならではの感性の育成や、グローバルな視野を持ち、変化する社会で活躍できる能力の育成など、社会情勢により求められる教育に取り組めます。

(*) デジタル技術を適切に使いこなし、責任を持って社会に参画する能力や態度のこと

旧

1. 子どもたちが未来を生き抜く力の育成

将来予測がますます困難となる時代において、子どもたちが夢や志のもとに可能性に挑戦し、豊かな未来を切り拓いていくためには、その基盤となる自己肯定感を涵養しながら、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し行動する力と、他者の存在や個性を大切にし協働する力を育むことが求められます。また、AIなどのデジタル技術の進展に伴い、情報を適切に活用し主体的に判断・行動する力や、人間ならではの感性や創造性を発揮する力がより一層重要となっています。

このため、幼児教育から各学校段階において、一人ひとりの長所や強みを生かしながら、自ら深く思考し学ぶ「確かな学力」と、他者を思いやり共に支え合う「豊かな心」、それらを支える「健やかな身体」をバランスよく育む教育を推進し、子どもたちが社会を生き抜く基盤となる力の育成を図ります。

また、ICTの効果的な活用や読書活動の充実等を通じた情報活用能力の向上、情報モラルを含めたデジタルシティズンシップ(*)の醸成といった情報化社会に対応する教育に加え、自然や地域社会での体験活動を通じた人間ならではの感性や探究心の育成など、社会情勢により求められる教育に取り組めます。

(*) デジタル技術を適切に使いこなし、責任を持って社会に参画する能力や態度のこと